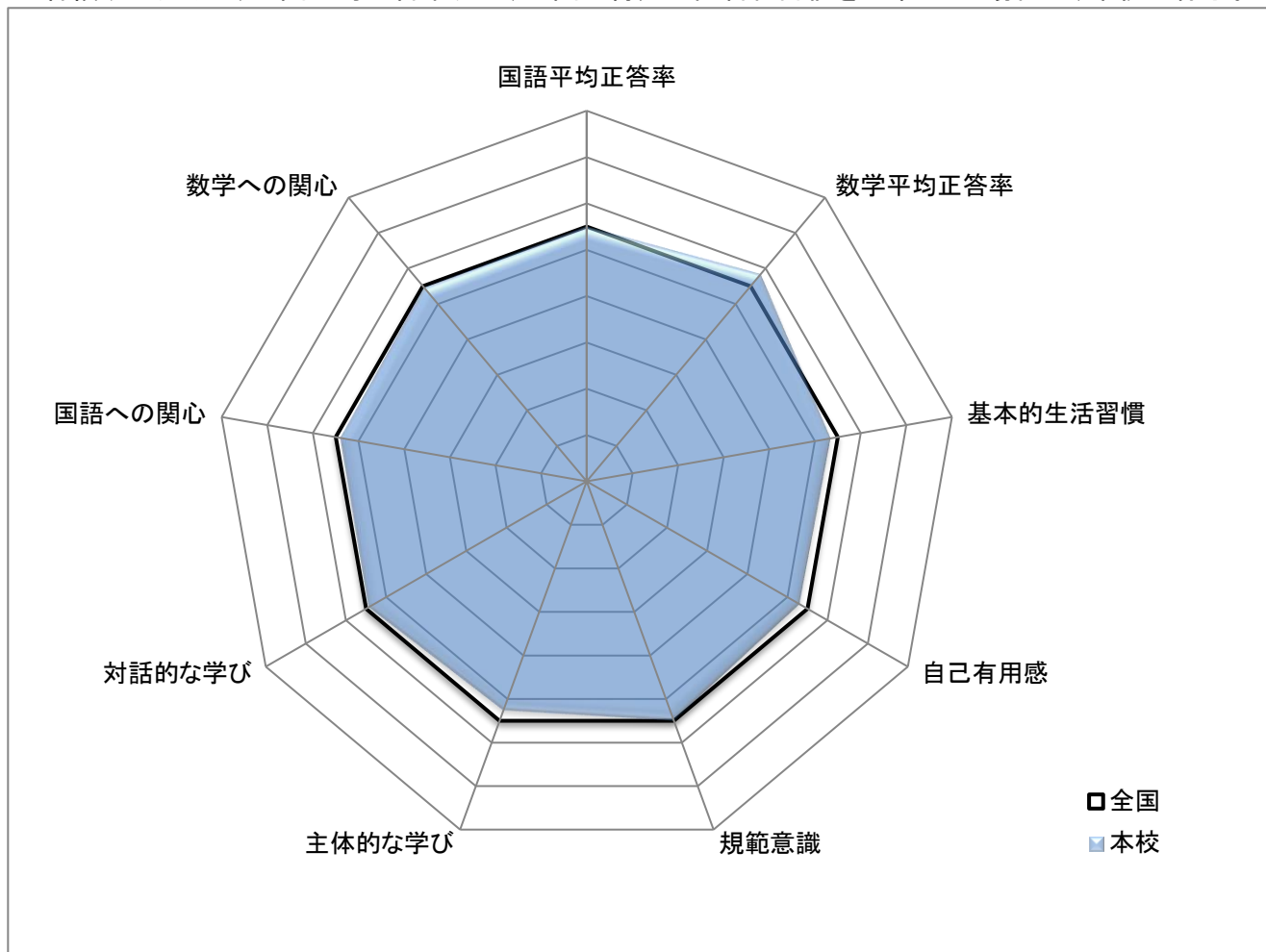


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

学力調査の結果から、国語は惜しくも全国平均に届かなかったものの、数学においては3.5ポイント上回る結果となった。教科への意欲や主体的な学びに関しても、平均値とほぼ同等であり、このことから、学習に対する意欲や態度、家庭学習の定着が伺える。さらなる学力向上に向けて様々な取組や個別最適な学びを行う必要があると考えられる。

《授業改善のポイント》

【国語】知識・技能における言語文化の事項が定着していない。漢字だけでなく、古典分野などの学習の定着を図る必要がある。読むことの正答率が低いことも、知識・技能が未定着なためである。筆者の考え、登場人物の心情の読み取りの仕方のポイントをおさえられるようワークシート等を活用していく。

【数学】数と式・図形など基礎基本の定着を図るため、毎授業の始めに計算演習を取り入れ、既習事項の振り返りを行う。また、文章題などの各単元のまとめの際には文章から立式をすることに重点を置いて反復練習を繰り返し行っていく。

《チャートの特徴》

学習状況における調査では、自己有用感や生活・学習習慣、対話的な学び、規範意識の設問では全国平均値とほぼ同等もしくは上回る結果が見られる。また、教科への興味関心も、昨年度と比べ2教科ともほぼ全国平均と同じポイントを示している。このことから、国語においては全国平均にわずか0.1ポイント及ばなかったものの、数学においては全国平均3.5ポイント上回る結果に繋がった。

《家庭・地域への働きかけ》

- 家庭学習定着に向けて
- ①ドリルパークを活用した家庭学習の実施
 - ②個別最適な学習への取り組み
 - ③各種コンテストに向けた家庭での取り組み
 - ④家庭への情報発信(学校・学年便り、保護者会)
 - ⑤メディアコントロールを活用した学習環境の整備